

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	金曜日	時限	7

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう				
------	------	-------	-----------------------------------	--	--	--	--

学習内容	柔道整復学総論（骨折、脱臼）を学ぶ。						
到達目標	柔道整復師国家試験に対応できるように骨折、脱臼について説明できるようになる。						

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習が必要。						
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント						
留意点 備考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。						

成績評価	前期中に3回小テストを実施する。期末試験70%+小テスト30%で評価する。						
------	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	人体に加わる力	柔道整復学を学習するうえで必要な人体に加わる力について説明することができる。
2	損傷時に加わる力	柔道整復学を学習するうえで必要な損傷時に加わる力について説明することができる。
3	骨の形態と機能	柔道整復学を学習するうえで必要な骨の形態と機能について説明することができる。
4	骨損傷の概要	骨損傷の概要について説明することができる。
5	骨折の分類	骨折の分類について説明することができる。
6	骨折の症状	骨折の症状について説明することができる。
7	骨折の合併症	骨折の合併症について説明することができる。
8	小児骨折	小児骨折について説明することができる。
9	高齢者骨折	高齢者骨折について説明することができる。
10	骨折の治癒日数	骨折の治癒日数について説明することができる。
11	骨折の治癒過程	骨折の治癒過程について説明することができる。
12	骨折の予後	骨折の予後について説明することができる。
13	骨折の治癒に影響を与える因子	骨折の治癒に影響を与える因子について説明することができる。
14	脱臼	脱臼について説明することができる。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	月曜日	時限	5

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復師に必要である解剖学用語、治療法、指導管理、外傷予防について学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての治療法を知り各処置での注意点を理解する。 また、怪我を未然に防ぐための活動について理解し、説明することができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	人体解剖学概説	【解剖学用語、器官の定義】 人体各部の名称およびその位置と方向を示す用語について理解し、説明ができる。	
2	柔道整復学概説	【柔道整復術および柔道整復師の沿革】 柔道整復術の沿革を知り、業務範囲について説明ができる。	
3	治療法 1	【整復法とは、骨折の整復法】 治療体位、整復法の定義が説明でき、骨折整復法の分類ができる。	
4	治療法 2	【脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置】 脱臼整復法の分類、R I C E 処置について説明ができる。	
5	治療法 3	【固定法】 固定の目的、固定範囲について説明ができる。	
6	治療法 4	【固定後の配慮】 固定法についての指導管理の理解と説明ができる。	
7	治療法 5	【後療法 1】 手技療法の基本型、誘導マッサージについて説明ができる。	
8	治療法 6	【後療法 2】 運動療法の基本型について説明ができる。	
9	治療法 7	【後療法 3】 運動療法の種類、禁忌についての理解説明ができる。	
10	指導管理	【患者を取り巻く環境】 指導管理を理解し、患者に再発予防に対する自己管理意識をもたせることができる。	
11	外傷予防 1	【第一段階①】 身体の基礎的状態の評価項目を知り、それぞれの対応を説明することができる。	
12	外傷予防 2	【第一段階②】 外傷予防啓発活動、メンタルヘルスを保つ活動について知り、説明することができる。	
13	外傷予防 3	【第二段階・第三段階】 早期発見、早期治療の重要性、受傷後の悪化防止について理解し、説明ができる。	
14	総復習	試験に向けての総復習を行い、期末試験 60 点以上を目指す。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	牧之瀬 泰佑	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復師における治療法（整復法、固定法、後療法）及びこれらに伴う指導管理と外傷予防を学ぶ。柔道整復師本来の治療法のみならず現代的医療にかかわる外傷に対する予防法や初期処置を学ぶ。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解する。 各組織の損傷から治癒に至る経過の理解をする。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	自己紹介（自分の経験した怪我）	柔道整復師の仕事がマッサージではなく、外傷を治す仕事であることを認識する	
2	関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。	
3	関節の構造と機能	関節構造を知り、骨の連結について理解する。また機能を把握する	
4	概説・損傷する組織 1	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する	
5	概説・損傷する組織 2	各組織ごとの損傷から治癒へ至る内容を理解する	
6	筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
7	筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
8	腱の損傷 1	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
9	腱の損傷 2	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
10	末梢神経損傷 1	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する	
11	末梢神経損傷 2	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解する	
12	血管・リンパ系・皮膚損傷 1	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
13	血管・リンパ系・皮膚損傷 2	血管・リンパ系・皮膚の損傷から治癒へ至る内容を理解する	
14	試験対策	前期の範囲を振り返り前期試験に自信を持って挑めるようにする	
15	試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する	

科目名 【英】	柔整基礎講座 1 Course of Basic Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	水曜日	時限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能を学び、基礎知識を身につける。
到達目標	1. 人体機能について学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 各項目のポイントを習得、整理して他者に伝えることができる。

準備学習 時間外学習	生理学1・柔整生理Aの講義内容の復習は必須である。本科目の予習もしておくことが望ましい。 予習プリントを各自取り組んでから授業に参加すること。
使用教材	PC・配布資料・生理学改訂第3版 根来英雄・貴邑富久子 著 (南江堂)
留意点 備考	プレゼンテーションを予定しているので自ら学ぶ姿勢をもつようにすること

成績評価	前期末試験100% (筆記)
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	オリエンテーション	講義説明【授業内容・スケジュール・ルール・成績評価】 生命の成り立ちと体液区分
2	体液 1	体液と調節①【体液組成・体液浸透圧調節】 体液のイオン組成について説明できる。
3	体液 2	体液と調節②【体液量調節】 体液調節の概要について説明できる。
4	体液 3	体液と調節③【体液の恒常性維持・腎臓】 腎臓の機能について説明できる。
5	血液 1	血液の機能【役割・血液組成・血球機能】 血液の機能と血球の種類について説明できる。
6	血液 2	血液型【ABO式血液型・輸血】 ABO式血液型について説明できる。
7	血液 3	血液凝固【止血機序・凝固因子・線溶系】 止血機序について説明できる。
8	神経系の機能 1	神経系の構成【中枢神経系・末梢神経系・脊髄の機能】 神経系の構成について説明できる。
9	神経系の機能 2	興奮の伝導と伝達【伝導の原則・シナプス・神経線維の分類】 伝導の原則について説明できる。
10	神経系の機能 3	反射【脊髄反射・伸張反射】 伸張反射の反射弓を図示できる。
11	プレゼン準備 1	プレゼンテーション準備【テーマ選び・発表形式・パワーポイント操作】 各チームがテーマを決定する。
12	プレゼン準備 2	プレゼンテーション準備【発表案の作成・スライド作成】 順序立てて発表案・スライドを作成することができる。
13	プレゼン準備 3	プレゼンテーション準備【発表案の作成・スライド作成・発表練習】 スライド・発表案が完成して発表することができる。
14	プレゼンテーション	学生講義【チームプレゼンテーション】 自らの言葉で学んだ内容を伝えられる。
15	総まとめ	前期内容の補填および復習 前期内容を説明することができる。

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	金曜日	時限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	脈管系（心臓、動脈、静脈、胎児循環、リンパ系）、内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器）の構造を学ぶ。
到達目標	脈管系、内臓系の構造を身体全体として把握し、それぞれの特徴を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、配布プリント
留意点 備考	副教材として生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	脈管系 1	【総論】 体循環・肺循環を理解し、循環全体の流れが説明できる。	
2	脈管系 2	【心臓の構造、刺激伝導系】 刺激伝導系の流れを覚え、説明できる。	
3	脈管系 3	【心膜、全身の動・静脈】 静脈の流れを知り、動脈との違いが説明できる。	
4	脈管系 4	【胎児循環、リンパ系】 成人と胎児の脈管の違いを理解し、説明できる。	
5	消化器 1	【消化器の流れ、口～胃】 口腔～肛門までの流れを覚え、簡単に図示することができる。	
6	消化器 2	【小腸、大腸】 小腸と大腸の違いを知り、特徴を説明することができる。	
7	消化器 3	【肝・胆・膵、腹膜】 肝臓の機能を理解し、説明することができる。	
8	呼吸器 1	【上気道】 呼吸器の全体流れを覚え、副鼻腔について説明することができる。	
9	呼吸器 2	【下気道】 気管・肺の左右差を知り、説明することができる。	
10	泌尿器	【腎臓～尿道】 泌尿器の役割、全体の流れを理解し、説明することができる。	
11	生殖器 1	【男性生殖器 1】 全体像を把握し、尿道と陰茎について理解し、説明することができる。	
12	生殖器 2	【男性生殖器 2】 精巣、精管の構造を知り、精子産生場所から射精までの流れが説明できる。	
13	生殖器 3	【女性生殖器 1】 卵巣の構造、卵巣周期、卵管について理解し、受精までの流れが説明できる。	
14	生殖器 4	【女性生殖器 2】 子宮の構造、月経周期、女性ホルモンについて理解し、説明ができる。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	柔整基礎講座 3 Course of Basic Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	骨・関節・筋の連結などについて立体的に学ぶ。
到達目標	解剖生理学の内分泌系、神経系の構造を把握し、それぞれの特徴を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『生理学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	内分泌系 1	【概説、視床下部、下垂体】 内分泌とは何か、下垂体前葉・後葉ホルモンの名称を答えることができる。	
2	内分泌系 2	【甲状腺、上皮小体、消化管】 甲状腺、上皮小体、消化管ホルモンの名称を答えることができる。	
3	内分泌系 3	【副腎皮質・髄質】 副腎皮質・髄質ホルモンの名称を答えることができる。	
4	内分泌系 4	【膵臓、生殖】 膵臓、生殖ホルモンの名称を答えることができる。	
5	神経系 1	【中枢神経 1】 神経細胞の構造を書くことができ、中枢神経の構成について説明することができる。	
6	神経系 2	【中枢神経 2】 大脳皮質・髄質の構造を知り、特徴について説明することができる。	
7	神経系 3	【中枢神経 3】 脳幹の構造を知り、特徴について説明することができる。	
8	神経系 4	【中枢神経 4】 脊髄の構造を知り、特徴について説明することができる。	
9	神経系 5	【中枢神経 5】 伝導路において、どの感覚・運動がどの伝導路によって伝わるのかを説明することができる。	
10	神経系 6	【中枢神経 6】 錐体路と錐体外路の違いについて説明することができる。	
11	神経系 7	【末梢神経 1】 脳神経 I～VI、視覚伝導路の特徴について説明することができる。	
12	神経系 8	【末梢神経 2】 脳神経 VII～X II、聴覚伝導路の特徴について説明することができる。	
13	神経系 9	【末梢神経 3】 脊髄神経の構造を知り、特徴について説明することができる。	
14	神経系 10	【末梢神経 4】 自律神経の構造を知り、特徴について説明することができる。	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	柔整基礎講座 4 Course of Basic Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	火曜日	時限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復術の習得に必要な基礎体表解剖を学ぶ。
到達目標	筋、骨、感覚、生殖の機能について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『生理学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋 1	【筋肉の種類とその特徴】 骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明ができる。	
2	筋 2	【筋収縮の仕組み】 筋細胞の興奮から筋が収縮するまでの流れについて説明ができる。	
3	筋 3	【平滑筋】 平滑筋の特徴について説明ができる。	
4	筋 4	【心筋】 心筋の特徴について説明ができる。	
5	骨	【カルシウム代謝、ビタミンD、骨の病気】 カルシウム代謝について説明ができる。	
6	感覚 1	【感覚の種類】 感覚の分類について説明ができる。	
7	感覚 2	【体性感覚、特殊感覚 1】 痛覚、深部感覚、嗅覚、味覚について説明ができる。	
8	感覚 3	【特殊感覚 2】 視覚について説明ができる。	
9	感覚 4	【特殊感覚 3】 聴覚について説明ができる。	
10	感覚 5	【特殊感覚 4】 前庭感覚について説明ができる。	
11	生殖 1	【性染色体とその異常】 性染色体、減数分裂について説明ができる。	
12	生殖 2	【男性生殖器系の構成、精子形成】 男性生殖器の構造、機能について説明ができる。	
13	生殖 3	【女性生殖器の構成、卵巣周期、月経周期】 女性生殖器の構造、機能について説明ができる。	
14	生殖 4	【生殖ホルモン】 オキシトシン、プロラクチン、妊娠についてのホルモンの説明ができる。	
15	試験解説	後期期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	月曜日	時限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%+口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	鎖骨骨折 1	【解剖、概説、発生機序、転位、症状】 鎖骨の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。	
2	鎖骨骨折 2	【合併症、整復法、固定法、後療法、後遺症】 鎖骨骨折の後遺症を理解し、整復固定法を行うことができる。	
3	鎖骨脱臼 1	【概説、胸鎖関節脱臼】 鎖骨周辺の靭帯について理解し、鎖骨脱臼の予後について説明することができる。	
4	鎖骨脱臼 2	【肩鎖関節脱臼】 症状や固定法などについて説明することができる。	
5	頭部・顔面の骨折 1	【解剖、頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折】 頭部の構造、通過する神経などを理解し、症状について説明できる。	
6	頭部・顔面の骨折 2	【鼻骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折】 それぞれの骨折の特徴について説明できる。	
7	顎関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 顎関節の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。	
8	顎関節脱臼 2	【後方脱臼、側方脱臼】 前方脱臼との違いについて説明することができる。	
9	頭部・顔面の 軟部組織損傷	【打撲、顎関節症、顎関節捻挫】 顎関節症の分類と特徴について説明することができる。	
10	頰椎の骨折	【解剖、頰椎の骨折】 頰椎・胸椎・腰椎の骨折を混乱せずに説明することができる。	
11	頰椎の脱臼	【頰椎の脱臼および脱臼骨折】 頰椎の骨折および脱臼においての	
12	頰部の 軟部組織損傷 1	【むちうち損傷、胸郭出口症候群、寝違え】 むちうち損傷および胸郭出口損傷の分類を覚え、それぞれの特徴について説明できる。	
13	頰部の 軟部組織損傷 2	【頰部で注意すべき疾患】 整形外科領域の疾患を知り、説明することができる。	
14	口頭試問	基礎各論 1 で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論2 Clinical Judo Therapy Basic2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肩甲骨骨折①	肩関節部の筋肉などの構造、肩甲骨骨折の分類について説明できる。
2	肩甲骨骨折②	肩甲骨の各骨折の症状などの特徴について説明できる。
3	上腕骨骨折①	解剖頸、骨頭、大結節、小結節の骨折について説明できる。
4	上腕骨骨折②	近位骨端線離開、外科頸骨折について説明できる。
5	上腕骨骨折③	外科頸骨折について説明できる。
6	肩関節脱臼①	前方脱臼、後方脱臼について説明できる。
7	肩関節脱臼②	下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について説明できる。
8	肩関節脱臼実技	整復法（ゼロポジション、スティムソンなど）を行うことができる。
9	肩関節部の軟部組織 損傷①	筋・腱損傷（腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる。
10	肩関節部の軟部組織 損傷②	スポーツ損傷（ベネット損傷・SLAP損傷）について説明できる。
11	肩関節部の軟部組織 損傷③	スポーツ損傷（肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩）について説明できる。
12	肩関節部の軟部組織 損傷④	不安定症、末梢神経障害について説明できる。
13	肩関節部の軟部組織 損傷⑤	その他の疾患（五十肩など）や注意すべき疾患について説明できる。
14	口頭試問	口頭により肩部の障害について説明できる。
15	試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論3 Clinical Judo Therapy Basic3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	5

担当教員	牧之瀬 泰祐	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を胸・背部、腰部、上腕部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	胸・背部の損傷	胸・背部の解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状について説明できる。	
2	胸部の骨折（肋骨・胸骨）	胸部の骨折の発生機序・症状について説明できる。	
3	胸椎の骨折	胸椎の骨折の発生機序・症状について説明できる。	
4	胸椎の脱臼	胸椎の脱臼の発生機序・症状について説明できる。	
5	その他の疾患について	その他の疾患について説明できる。	
6	注意すべき疾患について	注意すべき疾患について説明できる。	
7	腰部の損傷	腰部の損傷について説明できる。	
8	腰椎の骨折	腰椎の骨折について説明できる。	
9	腰椎の脱臼	腰椎の脱臼について説明できる。	
10	腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる。	
11	上腕部の損傷（解剖と機能）	上腕部の損傷について説明できる。	
12	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。	
13	上腕部の軟部組織損傷	上腕部の軟部組織損傷について説明できる。	
14	口頭試問	口頭により胸・背部、腰部、上腕部の障害について説明できる。	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	6

担当教員	牧之瀬 泰祐	実務者経験	H11年6月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術をおこなう。
------	--------	-------	---------------------------------------

学習内容	運動器の解剖、骨折・脱臼・軟部組織損傷を学び、鑑別に役立てる
到達目標	運動器の解剖と各損傷を結びつけて損傷を説明できるようになる

準備学習 時間外学習	解剖の予習を行えることが望ましい
使用教材	柔道整復学理論編 改訂第6版 南江堂
留意点 備考	

成績評価	定期試験90% 口頭試問10%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	胸椎部損傷	胸・背部の損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
2	胸椎部損傷	胸部の骨折（肋骨・胸骨） 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
3	胸椎部損傷	胸椎の骨折 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
4	胸椎部損傷	胸椎の脱臼 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
5	注意を要する疾患	胸椎部その他の疾患 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
6	注意を要する疾患	注意すべき疾患について 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
7	腰部損傷	腰部の損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
8	腰部損傷	腰椎の骨折 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
9	腰部損傷	腰椎の脱臼 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
10	腰部損傷	腰部の軟部組織損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
11	上腕部損傷	上腕部の損傷（解剖と機能） 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
12	上腕部損傷	上腕骨骨幹部骨折 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
13	上腕部損傷	上腕部の軟部組織損傷 解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状を説明できる	
14	口頭試問	口頭試問 口頭試問形式で内容を答えることができる	
15	解説	後期試験の解説 後期内容を要約して説明できる	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論5 Clinical Judo Therapy Basic 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	オリエンテーション	柔道整復学を学ぶ意義について 授業の目的を答えられる
2	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷 1 各障害の特徴を説明できる
3	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷 2 各障害の特徴を説明できる
4	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 その他疾患を知る
5	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症の注意点を説明できる
6	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 変形性股関節症の注意点を説明できる
7	大腿部損傷	大腿部損傷 大腿部の筋肉の解剖を説明できる
8	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の特徴を説明できる
9	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の分類を説明できる
10	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の治療上の注意点を説明できる
11	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷 1 大腿部打撲について説明できる
12	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷 2 大腿四頭筋肉ばなれについて説明できる
13	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷・注意すべき疾患 ハムストリングス肉離れの理解及び骨化性筋炎を説明できる
14	総復習	総復習 授業内容を再点検する
15	試験解説	解説・復習 後期内容を振り返り、ポイントを説明できる